

## 第 44 回 防災カフェを開催しました。

災害時 ラジオができること～滋賀県防災ラジオ協議会発足 1 年～



ゲスト：井上 麻子さん（エフエム滋賀パーソナリティー）

中辻 睦規さん（エフエムひこねパーソナリティー）

kumi さん（FMひがしおうみパーソナリティー）

中嶋 裕恵さん（えふえむ草津パーソナリティー）

柴田 悠馬さん（関西大学社会安全学部学生・えふえむ草津出演）

山元ゆうかさん（関西大学社会安全学部学生・えふえむ草津出演）

古田 誠さん（FMおおつ代表取締役）

ファシリテータ：大山 武人さん（NHK 大津放送局 放送部 アナウンサー）

日時：2019年12月18日（水）18時30分～ 場所：滋賀県危機管理センター

過去の大災害ではライフラインが途絶する中、ラジオは命を守る情報を伝え続けてきました。県内FM6局が「滋賀県防災ラジオ協議会」を発足させて1年。災害時にラジオはどんなことができるのか、楽しいトークを交え一緒に考えました。



まず、各局の災害時の対応、防災への取り組みなどを聴きました。

NHK 大津放送局(84.0MHz)では毎月第3金曜の18時から「しが！！防災応援ラジオ」を放送しています。防災の輪を広げ応援する目的で、各市町の防災担当者、防災士さんによる防災に役立つ話を取り上げています。テレビの「おうみ発630」で毎週木曜にある防災コーナーとも連動しているということでした。防災の輪を広げるために「防災発信サポーター」として県内で活動している小学校から大学までの放送部や新聞部のメンバーが防災について同世代に向けて発信している様子も紹介しているということでした。また、大山さんは、他の5局の防災についての放送にも出演されているということで、これはイザというときのために平常時から互いに顔の見える関係を築くためだそうです。



井上 麻子さん

関局 23 周年を迎えたエフエム滋賀 e-radio(77.0MHz)では、防災への取り組みの一環として「防災ハンドブック」を毎年作成して、県内の小学校の児童に配布しているということです。家庭に持ち帰っ

て皆さんに読んでもらえるようにわかりやすい表現になっているということでした。また、国や県からの緊急通報を受信できる装置も準備してイザというときにいち早く放送できるようにしているということでした。井上さんは、DJ を約 20 年されていて、実際に緊急地震速報が鳴ったことがあり、その時にスタッフとともに落ち着いて放送ができたそうで、リスナーの評判も良かったということでした。そのような経験をした井上さんは、昨年、防災士の資格を取ったそうです。

災害時にメディアの中からラジオを選んでもらうためには信頼される情報の発信はもちろんですが、普段から聴いてもらえるようなエンターテインメントの提供も大切だということでした。

エフエムひこね(78.2MHz)は 2002 年に滋賀県初のコミュニティFM 局として開局し、彦根市、犬上郡、愛荘町をカバーしています。夜に警報などが発令されると、徹夜でスタジオから放送をするのだそうです。そして、放送局の使命として災害が発生したとしても電波を出し続けるためにさまざまな設備を準備されていると



中辻 睦規さん

ということでした。また、緊急時には屋外に設置されている防災行政無線用のスピーカーからの放送も担当しているそうです。さらに、コミュニティ局の強みは、スタジオ周辺の状況とリスナーの状況が近いので、気象情報などはリスナーと同じ立場に立ったきめ細かな情報を伝えられることだということでした。

普段は、商店街の店主の方とか、地元の大学生といった地元の人たちに出演してもらって、これからも放送を身近に感じてもらえるようにしていきたいということでした。



kumi さん

F Mひがしおうみ Radio Sweet(81.5MHz)は、開局して 15 年で東近江市をカバーしています。「おはよう、火の用心」という消防の方にお話を聴くという毎週放送のコーナーが開局時からあるそうです。市の総合防災訓練では、関係団体の協力のもと災害多言語支援と災害ボランティアセンター情報伝達の 2 つの訓練をしているとい

うことでした。一つ目は、寄せられてくる様々な情報を取捨選択し、それを易しい日本語にしたり、多言語に翻訳して提供したりするというものです。二つ目は、例えば怪我した時に「こうしてください、あそこに行ってください」のようにわかりやすく、一人ひとりに情報を提供するというものです。また災害に備えて竜王町と協定を結んで互いに緊急放送の情報を提供するようになっているということでした。

災害で一人として犠牲者をだしたくないという思いがあるということで、普段、地域の方の出演を大切にして、これからも地域に親しまれる放送を心掛けたいということでした。



中島 裕恵さん

えふえむ草津(78.5MHz)は開局 10 年、草津市と大津、栗東、守山市の一部をカバーしています。緊急時には消防署と市役所からも放送ができ、市内 88 か所の屋外スピーカーやテレホンサービスでも聞けるそうです。その他にも幼児向けの防災絵本の朗読をオンデマンド放送しているということでした。また、山元

さんの素案をもとに放送局としての防災マニュアルを作成中だそうで、山元さんは、この作成にかかわって災害報道の大切さや難しさがよく分かったそうです。さらに国や県からの緊急通報を受信できるようになっているということでした。普段は、月 1 回の「教えて、



山元ゆうかさん

消防士さん 草津出張所」と「VOICE OF FIRE」という消防署員さんからの話を聴く番組、そして、「Happy BOUSAi」という番組があります。「Happy BOUSAi」は、2017 年 6 月から関西大学社会安全学部、市危機管理課、草津市アイドルグループのフルーレット



柴田 悠馬さん

とともに毎月第 2、第 4 火曜の夜と再放送もされています。ゲストの柴田さんも制作にかかわり、ラジオに馴染みの薄い若者層をターゲットに、山元さんをはじめ大学生による命を守るための「知って得する防災情報」をにぎやかに放送しているということでした。すでに 61

回を迎え、53 回には、大山さんも加わった「みんなで防災川柳」など、とかく堅苦しいと思われがちな防災に多くの人に関心をもってもらえるように工夫しているということで、手ごたえも感じられるようになってきているそうです。この番組もオンデマンド放送しているということでした。

普段は楽しく聴いてもらい、何かあったとき、「えふえむ草津でなんか災害情報、流してはるん違うか」と思い出してもらえるような放送局でありたいと思っているということでした。

FM おおつ(79.1MHz)は 2018 年 4 月に開局しました。開局理由の一つは大津市が活断層、花折断層の活断層が通っていて、直下型地震への備えが必要だからです。古田さんは、新聞記者の仕事に長く携わった後、和歌山放送で和歌山県庁、和歌山大学、NHK の皆さんと南海トラフの大地震への備えにかかわってきたということでした。災害時に臨時災害放送局が開設されたときに高校生たちに運営してもらおう、高校生たちが記者となって取材を

してもらって、そこで聞いたことをマイクの前に立って放送をするという訓練をしたということでした。そして、その経験を踏まえて郷里の大津市で FM おおつを立ち上げたということでした。



古田 誠さん

コミュニティー放送は、平穏な時に身近で信頼できる生活情報を送ってくださる方を増やしていき、イザというときにそういう方から送られてくる情報を丁寧に伝えていくようにしたいということでした。



大山 武人さん

「ラジオの強み」は、まず、パーソナリティーがリスナーに直接語り掛けるため互いの距離感が近く、日ごろから連帯感があるところだということでした。そして、災害時にはラジオならマイク一本でいろんな避難所をまわって、避難されている方の生の声を聴くことによって「みんな頑張っているんだ」という強いメッセージを伝えることができるのではないかということでした。こうしたことから他のメディアとも連携しながらも、人間的な部分で災害時にラジオが果たせる、ラジオならではの役割へのヒントがあるのではないかということが最後にまとめとして話されました。

リスナーの私たちが被災したとき、滋賀県防災ラジオ協議会の各ラジオ局が連携して、すべての人が厳しい状況に立ち向かえる勇気をもらえる放送を期待したいと思いました。

参加者からは多くの質問がありました。その一部を紹介します。

問：FM局として、被災経験のあるところとの交流についてはいかがでしょうか。

古田：2020年2月9日にスカイプラザ浜大津で和歌山の人たちを呼んできて「防災フォーラム in 大津」を行いますから来ていただきたいと思います。他地域の方々の放送局とつなぐのは割と簡単にできるので、やっていく必要があると思っています。

井上：以前 e-radio の AD が出身の岩手県に帰ってアナウンサーになったところに東日本大震災が起きて、その時、ずーっと放送局にいて放送を続けたことなどを実際聞いて、そういう覚悟を持っておかなければと思いました。

大山：未災地だけれども、懸命に防災に取り組んでいるところの話も聴くのも大事です。

柴田：大阪府北部地震のとき、一番揺れたところに下宿していた大学の先輩が、「Happy BOUSAi」でその経験を話してくれました。詳しくはオンデマンドで聴いてください。

カフェ・プラスで演奏いただいた、県立守山高校 吹奏楽部のみなさん  
ゲスト、ファシリテータ、参加者のみなさん ありがとうございました。